

令和7年度全国学力・学習状況調査結果分析（詳細版）



令和7年10月
松阪市教育委員会

目次

1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要	1
2. 教科に関する調査結果	3
・小学校	4
・中学校	7
3. 児童生徒質問調査結果	10
(1) 基本的生活習慣、学習習慣等	
(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	
(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
(4) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	
(5) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、理科）	
(6) ICTを活用した学習状況等	
(7) 地域や社会に関わる活動の状況等	
4. 学校質問調査結果	13
(1) 校内体制及び学校間連携等	
(2) 家庭や地域との連携等	
5. 成果につながったと考えられる松阪市の取組	14
6. 調査結果の分析	15
(1) 主体的・対話的で深い学びの創造	
(ア) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等	
(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
(ウ) 総合的な学習の時間における探究の過程	
(エ) ICTを活用した学習状況	
(2) カリキュラム・マネジメントの確立	
(ア) 教科等横断的な視点	
(イ) PDCAサイクルの確立	
(ウ) 地域との連携	
(エ) 家庭との連携	
7. 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の主な取組	24



用語説明

語句	説明
平均正答率	市内小中学校の平均正答率を百分率で表示。国語・算数（数学）・小学校理科の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
IRTスコア	中学校理科のIRTスコアは、IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表されたもの。※P.2を参照
肯定的な回答	質問調査において、例えば「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を示す。

1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要

1

調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、学習改善や学習意欲の向上につなげる

調査の概要

調査実施日	令和7年4月17日（木） 中学校理科の実施日：令和7年4月14日～4月17日のうち1日
調査対象	小学校調査 36校 第6学年 1,201人 中学校調査 11校 第3学年 1,178人
調査事項	小学校調査 教科調査（国語、算数、理科） / 質問調査 中学校調査 教科調査（国語、数学、理科） / 質問調査
今年度の調査の特徴	・ ※CBT調査の導入（中学校理科） ・ ※IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアでの結果提供（中学校理科） ・ 質問調査でのランダム方式の試行（中学校）

教科に関する調査結果概要

小学校平均正答率	国語	算数	理科
松阪市	67.1	60.6	55.2
三重県	66.1	57.1	56.0
全国	66.8	58.0	57.1
全国との差	+0.3	+2.6	-1.9

中学校平均正答率・IRTスコア	国語	数学	理科 （IRTスコア）
松阪市	50.7	46.0	490
三重県	53.2	47.4	498
全国	54.3	48.3	503
全国との差	-3.6	-2.3	-13

1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要

2

中学校理科調査について



令和7年度調査では、初めて中学校理科調査にIRTが導入された。IRTとは、国際的な学力調査（PISA・TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論である。

IRTとは

- ・ Item Response Theory：項目反応理論
- ・ 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

<視力検査を例としたイメージ>

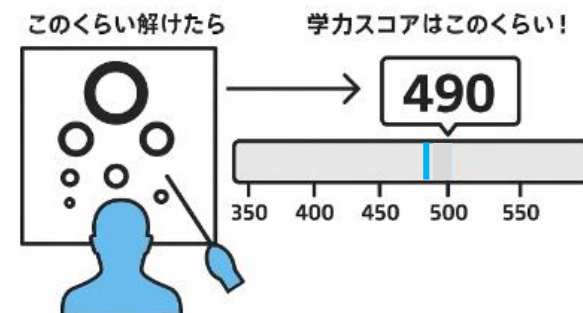
	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例	0.1 0.2 0.3 0.4 5問/7問 (正答率71%) Aさん 4問/7問 (正答率57%) Bさん	0.1 0.2 0.3 0.4 0.2 Aさん 0.3 Bさん

引用：文部科学省「中学校理科」 IRTを用いた結果返却に関する説明資料

IRTスコア

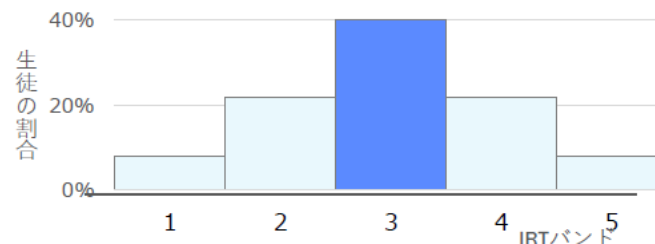
- ・ IRT に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表されたもの。

<IRTスコアのしくみ>



IRTバンド

- ・ 個人の結果は下記のような5段階のIRTバンドで表示・返却される。
- ・ 3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。



引用：文部科学省「中学校理科」 IRTを用いた結果返却に関する説明資料

素点方式 Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環数）・正答率が高くなる。

IRT方式 Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

2. 教科に関する調査結果

小学校 成果と課題

国語	○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることが概ねできている。【1三(1)】 ●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題がある。【2一】
算数	○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることが概ねできている。【1(1)】 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。【4(4)】
理科	○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することが概ねできている。【1(1)】 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識の習得に課題がある。【3(1)】



※【 】内は問題番号

中学校 成果と課題

国語	○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることが概ねできている。【1二】 ●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。【2一】
数学	○必ず起こる事柄の確率について理解することが概ねできている。【7(1)】 ●一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題がある。【4】
理科	○科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することが概ねできている。【1(6)】 ●電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能の習得に課題がある。【1(1)】



※【 】内は問題番号

2. 教科に関する調査結果（小学校国語）

出題の趣旨 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる

2－ 【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する

- 1 読んでほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている。
 - 2 伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いている。
 - 3 文章の筋道が整うように、原因と結果を明らかにして書いている。
 - 4 読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いている。
- 一 山田さんは、文章の構成をくふうして【ちらし】を書いています。山田さんが文章の構成をどのようにくふうしているかを説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさとは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、好きなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

イあつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

山田さんの学級では、伝統工芸品についてすいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてすいせんする文章を、次の【ちらし】に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

令和7年度
【小学校国語】
報告書 大問2
授業アイデア例



国立教育政策研究所

正答

2

	松阪市	全国
正答率	61.9	65.5
無解答率	0.4	0.8

松阪市の児童の
解答状況

「4」を選択した誤答の割合が高かった。山田さんが、読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いていると捉えている。この中には、順序に着目してしまい、伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

授業改善方策

「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にもつことが大切である。その上で、その目的を達成するには、「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めることが重要である。書く内容の中心は明確になっているが、内容のまとまりごとに構成できない児童がいる場合は、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることが効果的である。

2. 教科に関する調査結果（小学校算数）

5

出題の趣旨 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる

4(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mlです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

左図の㊦にあてはまる数を、下の 1 から 4 までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

正答	松阪市	全国
2	正答率 39.1	40.9
	無解答率 2.7	4.1

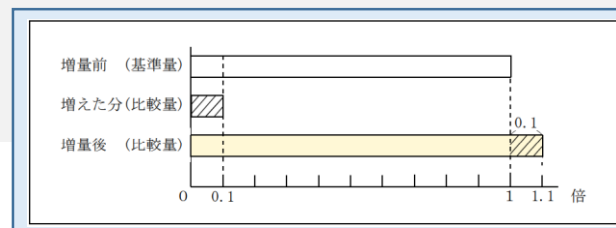
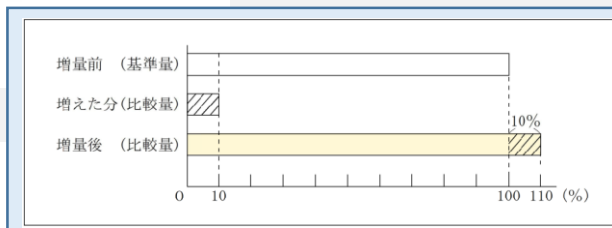
令和7年度
【小学校算数】
報告書 大問4
授業アイデア例



国立教育政策研究所

松阪市の
児童の
解答状況

「1」を選択した誤答の割合が高かった。「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることはできていないと考えられる。または、「増量後の量」が「増量前の量」の1.1倍と捉えることができていないと考えられる。



授業改善方策

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。例えば、「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを考え、説明する活動が考えられる。その際、増量前の量を基準量として、図のように、基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。

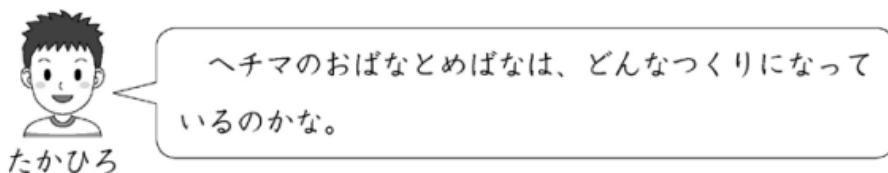
2. 教科に関する調査結果（小学校理科）

6

出題の趣旨 ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる

3(1) ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く

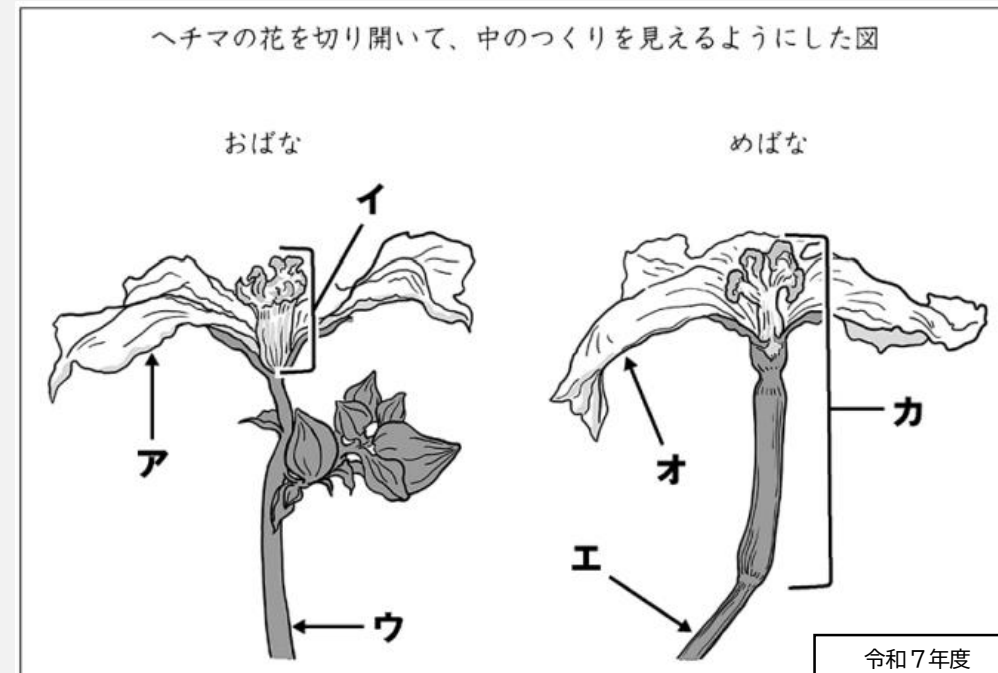
たかひろさんとてるみさんは、ヘチマの花のつくりについて調べています。



(1) ヘチマのおしべとめしべを右の図の **ア** から **カ** の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。

また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。

正答		
イ（おしべ）、カ（めしべ）、受粉	松阪市 正答率 64.2 無解答率 1.4	全国 70.7 1.5



松阪市の児童の
解答状況

おしべとめしべの部位と名称が一致するよう選択できているが、花粉がめしべの先につくことを受粉という言葉で説明できていない誤答の割合が高かった。花粉がめしべの先につくことを受粉ということが知識として身に付いていないと考えられる。

令和7年度
【小学校理科】
報告書 大問3
授業アイデア例



国立教育政策研究所

授業改善方策

理科では、科学的な言葉を使うことが重要である。指導に当たっては、科学的な言葉を使って説明する場面を設定することが大切である。例えば、花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせておしべやめしべの部位と名称を説明する学習活動、さらに、複数の種類の花を観察し、その共通点としておしべとめしべを見つける学習活動が考えられる。受粉について調べる実験を行う際には、受粉という言葉を使いながら説明するように指導すること、また、受粉という科学的な言葉を使って学習のまとめをすることが考えられる。

2. 教科に関する調査結果（中学校国語）

7

出題の趣旨 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる

2ー スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する

- 2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイデアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルを見てもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、〈スライド①〉から〈スライド⑤〉までを読んで、あとの問いに答えなさい。

【村田さんのスピーチ】

私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、苗から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

ここで、〈スライド①〉を提示

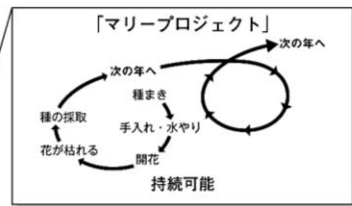
スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけではなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

ここで、〈スライド②〉を提示

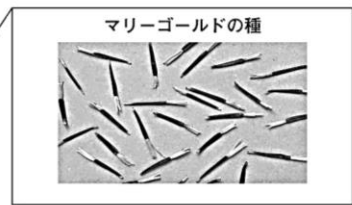
これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、



〈スライド①〉



〈スライド②〉



みんなが持ち帰ったとしても、採取した種は残ってしまいます。……あ、1年間で採取した種のうち、半分以上は残ってしまうのですよ。そこで、考えたのが、今行っている活動を発展させた「つなごうマリープロジェクト」です。

ここで、〈スライド③〉を提示

このプロジェクトの長所は、まず、残ってしまう種を活用できることです。そして、地域の方にも、花を育てる楽しみを味わってもらえます。しかも、マリーゴールドの種は毎年採取できるので、このプロジェクトも持続可能です。

ここで、〈スライド④〉を提示

このプロジェクトの内容は、残った種を地域の希望する方にも配るということです。例えば、地域の方が来校する学校行事や、私たちが参加する地域の行事などで配りたいと思います。育ててくださる地域の方のために、残った種から発芽しやすいものを選び、育て方のポイントを書いたカードと一緒に渡します。

ここで、〈スライド⑤〉を提示

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思います。これで、私の発表を終わります。

〈スライド③〉

「つなごうマリープロジェクト」の長所

- 残った種を活用できる
- 地域の方にも楽しんでもらえる

こちらも持続可能

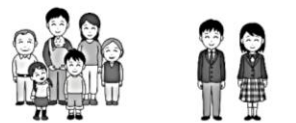
〈スライド④〉

「つなごうマリープロジェクト」の内容

- 残った種を地域の希望者に配布
- ・学校行事や地域の行事で
- ・育て方のポイントを書いたカードを添えて

〈スライド⑤〉

「つなごうマリープロジェクト」



ー 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部㉑「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。

- 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

松阪市の生徒の解答状況及び授業改善方策

誤答は、解答類型1を選択した生徒が38.7%で最も高く、正答の33.1%を上回った。類型1は、村田さんが、意見とそれを支える根拠が印象に残るように話していると誤って捉えたと考えられる。または、スライドの内容が意見だけを要約していると誤って捉えたと考えられる。正答の類型2は、村田さんが話の要点を絞って話していることや、活動に参加したことがない人にも理解してもらえるよう、補足の情報をスライドで示していることを捉えたと考えられる。

授業においては、自分が調べた内容を伝える場面を設定し、聞き手に伝わりやすいように、要点を絞ったり資料や機器を用いたりしながら伝える活動を行うとともに、目的や状況に応じた伝え方の工夫について話し合うことが重要である。また、総合的な学習の時間など、他教科等の学習と連携することも有効である。

令和7年度
【中学校国語】
報告書 大問2
授業アイデア例



国立教育政策研究所

	松阪市	全国
正答率	33.1	38.1
無解答率	0.2	0.3

正答
2

2. 教科に関する調査結果（中学校数学）

8

出題の趣旨 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる

4 一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める

一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる問題である。

正答「12」（解答類型1）の考え方

x の増加量が2のときの y の増加量を求める

$$y = 6x + 5$$

$$6 = \frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}} \text{ より}$$

$$y \text{ の増加量は } 6 \times 2 = \boxed{12}$$

		+2	
x	0	1	2
y	5	11	17

誤答「17」（解答類型3）の考え方

x の値が2のときの y の値を求める

$$y = 6x + 5$$

$$x = 2 \text{ を代入して}$$

$$y = 6 \times 2 + 5$$

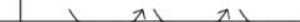
$$= \boxed{17}$$

x	0	1	2
y	5	11	

日常生活に一次関数を活用する（過去の調査問題から）

平成25年度【中学校】数学B3「水温の変化と気温の変化」

水を熱した時間 x (分)と水温 y ($^{\circ}\text{C}$) の関係を用いて、水温が 80°C になるのは何分後かを予測する。

	
熱した時間 x (分)	0 2 4 6 8 10
水温 y ($^{\circ}\text{C}$)	20.0 28.2 36.1 44.2 52.0 60.0
	

その上で、 x と y の関係を一次関数と仮定し、変化の割合が $\frac{8}{2} = 4$ となることから、 $y = 4x + 20$ と式に表したり、グラフをかいたりして、水温が 80°C になるまでにかかる時間を予測するなど、変化の割合を事象の考察に用いることができるようにすることが大切である。

	松阪市	全国
正答率	26.9	34.7
無解答率	9.4	8.0

令和7年度
【中学校数学】
報告書 大問4
分析結果と課題



国立教育政策研究所

松阪市の生徒の
解答状況及び
授業改善方策

誤答は、解答類型3が33.8%で最も多く、正答1の26.9%を上回った。全国でも誤答の中で最も多いのは3である。 x の値が2のときの y の値を求めて「17」を選択したためだと考えられる。授業においては、「増加量」や「変化の割合」の意味、一次関数の変化の割合が一定であることを確認したうえで、今年度の調査問題のような問題に取り組み、 x の増加量が2のときの y の増加量を比べる場合と、 x の値が2のときの y の値を求める場合の2通りの過程や結果を比べ、違いを捉えられるようにすることが重要である。

2. 教科に関する調査結果（中学校理科）

9

出題の趣旨 電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる

1(1) 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する

理科の実験で使用する水について考える

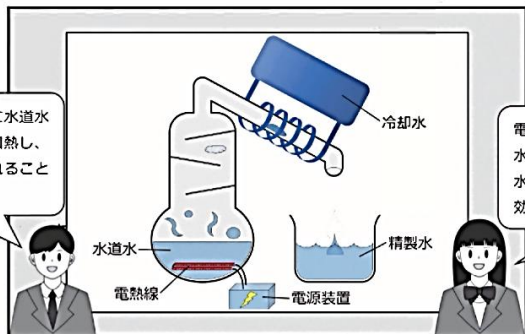


理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。



精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。



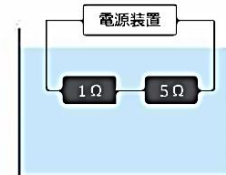
電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。



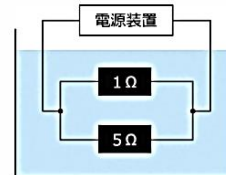
より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。



装置1



装置2

1Ω 1Ωの電熱線
5Ω 5Ωの電熱線

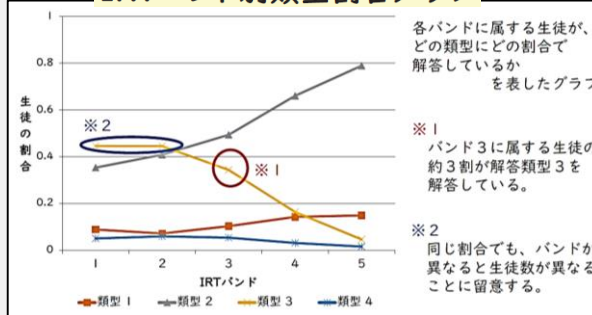
(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい 選択肢から選ぶ

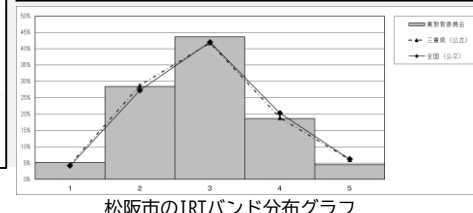
速く水が温まる装置 選択肢から選ぶ

IRTバンド別類型割合グラフ



引用：令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会資料

全国的な傾向として、IRTバンド1・2の生徒では、類型2（正答）と類型3（誤答）が近い割合で分布している。松阪市は、IRTバンド3・2の生徒の割合が多く、類型3の改善を図ることが重要である。



松阪市のIRTバンド分布グラフ

解答類型	正答	回路全体の抵抗が大きい装置	速く水が温まる装置	割合(%)
1		装置1【直列】	装置1【直列】	8.0
2	◎	装置1【直列】	装置2【並列】	49.4
3		装置2【並列】	装置1【直列】	36.3
4		装置2【並列】	装置2【並列】	4.7

	松阪市	全国
正答率	49.4	51.9
無解答率	0.3	0.2

令和7年度
【中学校理科】
報告書 大問1
授業アイデア例



国立教育政策研究所

松阪市の生徒の
解答状況及び
授業改善方策

「回路全体の抵抗が大きい装置」「速く水が温まる装置」の2つに対して、装置1か2をそれぞれプルダウンで選択して回答するCBT調査ならではの解答の仕方である。誤答の中では、解答類型3を選択した生徒が最も多かった。「回路全体の抵抗が大きいのは直列の装置である」ということが理解できていないと考えられる。授業においては、電流計や電圧計を用いて電流や電圧を測定する場面を設定し、電流・電圧・抵抗の関係から回路全体の抵抗を思考する学習活動を丁寧に行うことが重要である。

3. 児童生徒質問調査結果

10



(1) 基本的生活習慣、学習習慣等

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

■ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.0	80.9	81.9	80.0	82.7	81.0
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.0	91.0	91.0	93.0	93.4	92.6
(16)	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	75.8	81.6	81.7	78.4	79.6	77.5
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	52.9	50.3	54.0	61.6	60.5	61.6
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）※1時間以上	18.1	18.8	19.6	17.6	13.8	13.7
(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	39.1	38.0	47.1	46.5	49.8	57.9
(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）※10分以上、R5と比較	50.1	50.4	53.2	36.2	36.4	40.4

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・「質問番号(2)」(以下質問番号のみ記載する)について、小中学校ともに前回調査結果と比べて改善が見られ、(3)に対して約9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。
- ・(16)(17)(18)について、小学校は全国の割合を下回っているが、前回調査結果と比べて改善が見られ、中学校は全国の割合を上回っている。
- ・(21)について、小中学校ともに全国の割合を下回っている。



(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(5)	自分には、よいところがあると思いますか	83.5	85.1	86.9	87.2	86.8	86.2
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.1	92.5	92.2	91.5	92.7	92.2
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	82.0	82.4	83.1	68.3	68.8	67.5
(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか	94.5	94.0	93.7	92.7	91.1	90.9
(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6	97.6	97.2	97.8	96.4	95.9
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	69.1	69.5	70.6	74.9	73.5	73.2
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.6	96.4	96.4	96.4	96.4	96.6
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.3	85.0	86.5	86.3	87.4	86.1
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.7	77.3	78.1	77.7	80.4	79.2
(14)	友達関係に満足していますか	91.4	92.2	91.7	92.8	91.6	91.4
(15)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.7	93.1	93.0	91.7	91.9	91.6

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・取り上げた質問項目のうち9つの質問項目で、小中学校ともに前回調査結果と比べて改善が見られる。また、小学校では3つ、中学校では8つの質問項目で全国の割合を上回っている。
- ・(8)(9)について、小中学校ともに全国の割合を上回り、さらに前回調査結果と比べて改善が見られる。

3. 児童生徒質問調査結果

11

(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

□ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(31)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.7	65.7	68.6	65.5	61.1	63.0
(32)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	73.2	78.8	80.3	80.3	80.1	77.7
(33)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	69.0	75.5	77.8	71.4	71.2	70.6
(34)	これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	81.2	83.0	83.4	79.4	80.4	79.3
(35)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	79.7	84.2	84.9	85.4	85.1	84.7
(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	75.7	79.2	79.4	75.7	75.2	73.4
(37)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	78.5	81.5	82.5	75.2	76.5	74.8
(38)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	88.5	89.4	87.4	85.0	85.2	83.8
(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	90.9	92.1	91.9	93.0	92.0	91.9

(4)総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(40)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	70.5	76.2	82.3	73.7	73.3	79.5
(41)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	76.5	80.7	83.3	84.0	84.4	84.3
(42)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	76.5	80.2	80.8	78.2	78.6	77.3
(43)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	85.3	86.7	88.0	92.5	91.4	91.5

<松阪市全体の特徴的な傾向>

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」

- ・中学校において、取り上げた全ての質問項目で、全国を上回っている。
- ・(38)について、小中学校ともに全国の割合を上回っている。
- ・(39)について、小学校においては前回調査結果と比べて改善傾向が見られ、中学校においては全国の割合を上回り、さらに前回調査結果と比べて改善している。

<松阪市全体の特徴的な傾向>

「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」

- ・(40)について、小学校において全国の平均を下回るが、前回調査結果と比べて改善している。
- ・(42)(43)について、中学校において全国の割合を上回っている。



3. 児童生徒質問調査結果

12

(5) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、理科）



□：前回調査に比べて改善傾向にあるもの □：全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(44)	国語の勉強は得意ですか（新規）	54.7	57.9	61.4	45.2	50.9	51.4
(45)	国語の勉強は好きですか	51.0	53.6	58.3	52.3	58.0	57.9
(46)	国語の授業の内容はよく分かりますか	79.8	83.4	82.8	73.9	80.0	77.0
(47)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.4	90.5	90.4	85.7	88.3	88.3
(52)	算数（数学）の勉強は得意ですか（新規）	62.7	62.4	60.3	45.1	49.5	46.0
(53)	算数（数学）の勉強は好きですか	60.0	58.8	57.9	51.3	55.2	53.8
(54)	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	81.9	81.7	78.3	73.7	75.7	70.3
(55)	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	92.8	91.6	75.9	77.9	75.2
(60)	理科の勉強は得意ですか（新規）	69.1	74.3	78.4	48.8	51.2	50.7
(61)	理科の勉強は好きですか（R6と比較）	72.0	76.3	80.1	61.4	62.6	63.8
(62)	理科の授業の内容はよく分かりますか（R4と比較）	84.4	87.8	88.9	73.8	75.1	71.4
(63)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（R4と比較）	76.8	80.1	79.9	61.8	65.6	63.4

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・(52)(53)(54)(55)について、小学校において、全国の割合を上回っている。
- ・(54)(55)について、中学校において、全国の割合を上回っている。

(6) ICTを活用した学習状況等



数値：肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(28)	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週1回以上	93.8	92.2	89.7	97.4	95.7	92.2
(29-1)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますと思いますか（新規）	74.7	80.8	81.8	86.1	84.9	83.6
(29-2)	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますと思いますか（新規）	87.8	89.1	89.8	93.3	92.1	91.5
(29-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますと思いますか（新規）	62.8	67.9	69.3	72.6	66.4	63.3
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか（新規）	57.1	68.1	76.7	76.0	72.3	76.6

(7) 地域や社会に関わる活動の状況等

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(26)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（新規）	38.5	40.5	39.4	28.2	30.7	29.5
(27)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	78.2	82.0	81.3	76.8	77.4	75.3

<松阪市全体の特徴的な傾向> 「ICTを活用した学習状況等」

- ・(28) (29-1)(29-2)(29-3)について、中学校において全国の割合を上回っている。
- ・(28)について、小中学校ともに全国の割合を上回り、さらに中学校では前回調査結果から改善している。

<松阪市全体の特徴的な傾向> 「地域や社会に関わる活動の状況等」

- ・(27) について、中学校において全国の割合を上回っている。小学校においても、全国の割合は下回るが、約8割の児童が肯定的な回答をしている。

4. 学校質問調査結果

13

(1) 校内体制及び学校間連携等

(2) 家庭や地域との連携等

□ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

■ : 全国の割合を上回っているもの

数値 : 肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(14)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	97.3	97.4	96.6	100	96.1	94.4
(15)	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	95.6	97.1	100	96.7	96.0
(16)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.2	97.3	97.5	90.9	92.7	92.1
(72)	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	80.6	76.1	65.3	91.0	77.5	71.7

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(77)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	94.4	96.7	93.3	100	92.7	89.0
(80)	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100	98.5	96.6	100	95.3	92.8
(81)	前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	94.4	92.9	90.6	90.9	86.1	85.9
(82)	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	97.3	94.4	90.4	81.8	88.1	84.0

<松阪市全体の特徴的な傾向>

- ・(14)(15)について、小中学校ともに全国の割合を上回っている。特に(15)に関しては100%の割合となっている。
- ・(72)について、小中学校ともに全国の割合を上回り、さらに前回調査結果と比べて改善が見られる。

<松阪市全体の特徴的な傾向>

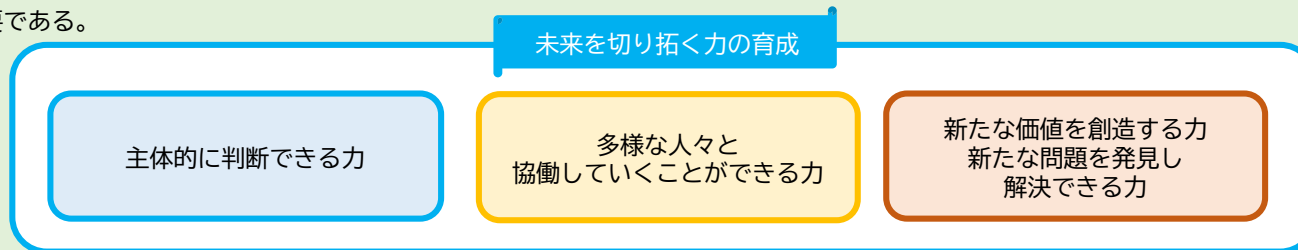
- ・小学校において、全ての質問項目で全国の割合を上回っている。
- ・(77)(80)(81)について、中学校において全国の割合を上回り、さらに前回調査結果と比べて改善が見られる。
- ・(80)について、小中学校ともに100%の割合となっている。
- ・(81)について、小中学校ともに全国の割合を上回り、さらに前回調査結果と比べて改善が見られる。



5. 成果につながったと考えられる松阪市の取組

基本的な考え方

文部科学省では、これからの予測困難な社会を生き抜く子どもたちに必要な力として、教室の中だけで学びを完結させるのではなく、自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動する力、そして仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力の育成を掲げている。松阪市においては、このような力を「未来を切り拓く力」と位置づけ、各学校では、子どもたちに未来社会を生き抜くための資質・能力を、より確実に育成する取組を進めてきた。教育活動の質を高めるためには、子どもたちの学びの姿や日々の教育活動を振り返り、改善・充実を図っていくことが重要である。



松阪市教育委員会の具体的な取組

①「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を活用した学校・家庭・地域が一体となった教育体制の構築

子どもたちに、自らの可能性を発揮し、他者との絆を大切にしながら、失敗を恐れず夢と志をもって挑戦し、豊かな未来を切り拓く力を育成するため、「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を制定し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら、一体となって子どもたちに「未来を切り拓く力」を育む取組を進める。



【生活習慣を確立する】

【主体的に学ぶ】

【説明力を伸ばす】

【考えを深める】

【学んだことを活用する】

5つのチャレンジ
リーフレット



②「主体的・対話的で深い学び」の視点等からの授業改善

「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」も大切に授業づくりの推進

- 「未来を切り拓く力」育成に向けた授業改善
- 教科等の特質に応じた見方・考え方を重視した授業づくり
- 総合的な学習の時間等における探究的な学習の推進
- ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の充実

③カリキュラム・マネジメントの確立

学校のエデュケーション活動を常に検証し、見直しを図り、学習の成果を高めるための教育活動の改善

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
- 学校間による取組の共有

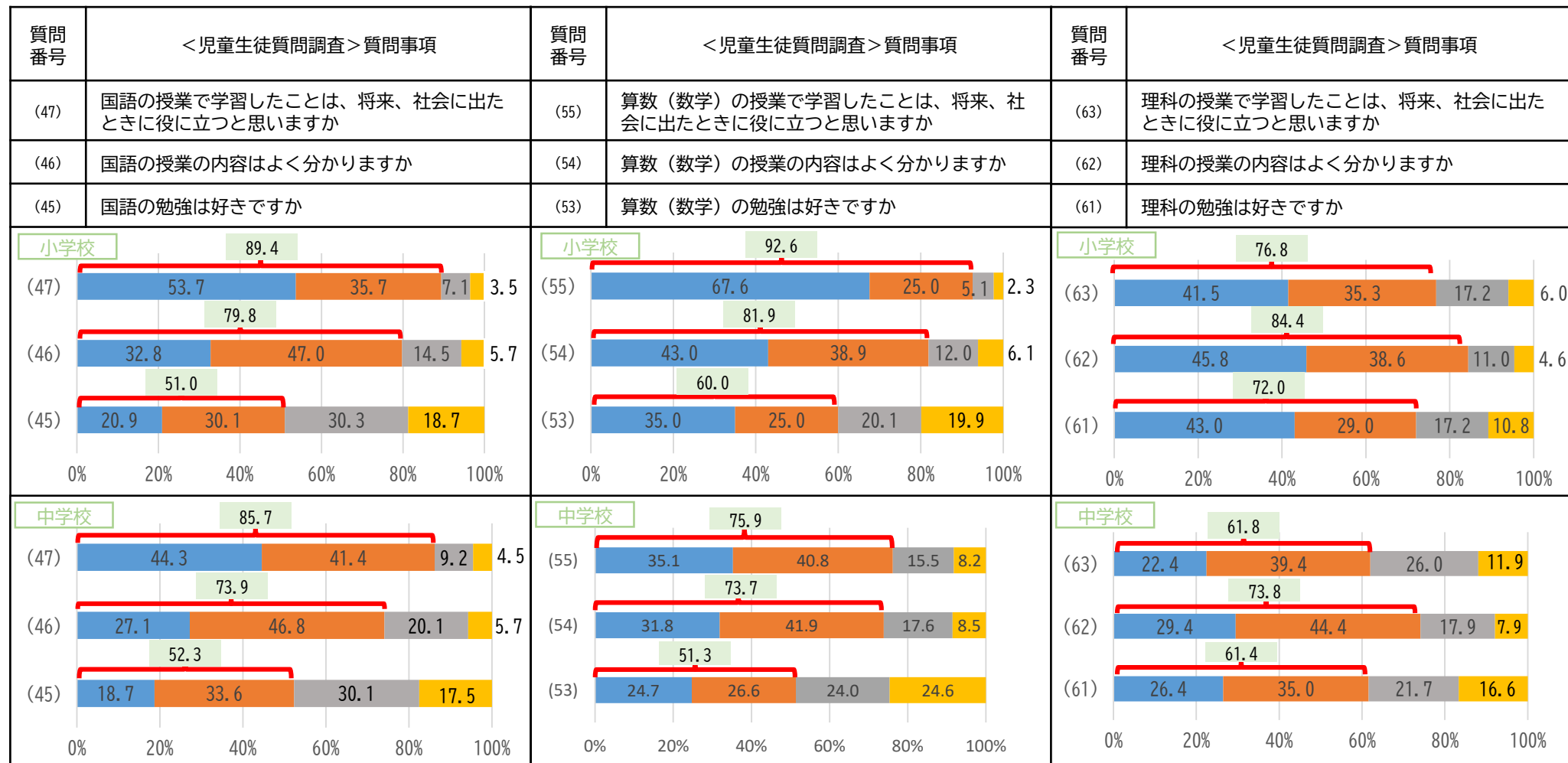
④非認知能力（自己肯定感・自己有用感等）の育成に向けた取組の充実

- 学級経営マイスター事業・スリンプルプログラムの推進
- Q-U（学級満足度調査）の活用

児童生徒質問調査と学校質問調査、教科に関する調査に係る分析を行った。次ページからは、児童生徒質問調査結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。児童生徒質問調査に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られた質問項目の中から、主な質問項目を抜粋して掲載している。関連する学校質問調査についても考察した。また、学力との相関関係だけでなく、異なる児童生徒質問調査の結果どうしについてクロス分析を加え、関連する項目についても考察した。

(ア) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



<松阪市全体の特徴的な傾向> 国語や算数・数学においては、教科の有用性や授業内容の理解について肯定的に捉える児童生徒の割合に比べ、教科そのものへの興味・関心は相対的に低い傾向が見られる。これは継続的に見られる課題であり、児童生徒の学びへの意欲を高めるための工夫が求められる。具体的には、児童生徒の興味・関心を喚起するために、教材の工夫、発見や気づきにつながる話合いの場の設定、日常生活や社会との関連付けなど、授業の改善が必要である。

(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

※ は、中学校理科のIRTスコアを表示

質問番号		＜児童生徒質問調査＞質問事項		質問番号		＜児童生徒質問調査＞質問事項																																																																																	
(32)		これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか		(33)		これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか																																																																																	
＜学力とのクロス分析＞				＜学力とのクロス分析＞																																																																																			
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 <table border="1"><thead><tr><th>教科</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>71.9</td><td>68.7</td><td>60.0</td><td>53.7</td></tr><tr><td>算数</td><td>66.8</td><td>62.4</td><td>52.9</td><td>45.4</td></tr><tr><td>理科</td><td>61.1</td><td>56.2</td><td>50.0</td><td>41.6</td></tr></tbody></table> 中学校 <table border="1"><thead><tr><th>教科</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>56.9</td><td>50.5</td><td>44.9</td><td>36.5</td></tr><tr><td>数学</td><td>57.4</td><td>45.5</td><td>35.4</td><td>22.4</td></tr><tr><td>理科</td><td>528</td><td>491</td><td>449</td><td>400</td></tr></tbody></table>				教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	71.9	68.7	60.0	53.7	算数	66.8	62.4	52.9	45.4	理科	61.1	56.2	50.0	41.6	教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	56.9	50.5	44.9	36.5	数学	57.4	45.5	35.4	22.4	理科	528	491	449	400	■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない 小学校 <table border="1"><thead><tr><th>教科</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>71.2</td><td>68.7</td><td>61.7</td><td>58.6</td></tr><tr><td>算数</td><td>66.0</td><td>61.7</td><td>55.9</td><td>50.8</td></tr><tr><td>理科</td><td>60.5</td><td>56.1</td><td>51.3</td><td>45.2</td></tr></tbody></table> 中学校 <table border="1"><thead><tr><th>教科</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>54.9</td><td>51.5</td><td>46.2</td><td>46.3</td></tr><tr><td>数学</td><td>51.8</td><td>48.0</td><td>38.9</td><td>31.7</td></tr><tr><td>理科</td><td>514</td><td>499</td><td>462</td><td>426</td></tr></tbody></table>				教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	71.2	68.7	61.7	58.6	算数	66.0	61.7	55.9	50.8	理科	60.5	56.1	51.3	45.2	教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	54.9	51.5	46.2	46.3	数学	51.8	48.0	38.9	31.7	理科	514	499	462	426
教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	71.9	68.7	60.0	53.7																																																																																			
算数	66.8	62.4	52.9	45.4																																																																																			
理科	61.1	56.2	50.0	41.6																																																																																			
教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	56.9	50.5	44.9	36.5																																																																																			
数学	57.4	45.5	35.4	22.4																																																																																			
理科	528	491	449	400																																																																																			
教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	71.2	68.7	61.7	58.6																																																																																			
算数	66.0	61.7	55.9	50.8																																																																																			
理科	60.5	56.1	51.3	45.2																																																																																			
教科	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	54.9	51.5	46.2	46.3																																																																																			
数学	51.8	48.0	38.9	31.7																																																																																			
理科	514	499	462	426																																																																																			
質問番号		＜学校質問調査＞質問事項		小学校		中学校																																																																																	
(34)		各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか		83.3		72.7																																																																																	

(イ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

※ は、中学校理科のIRTスコアを表示

質問番号		＜児童生徒質問調査＞ 質問事項		質問番号		＜児童生徒質問調査＞ 質問事項																																																																																	
(36)		学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか		(37)		授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか																																																																																	
＜学力とのクロス分析＞				＜学力とのクロス分析＞																																																																																			
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない 小学校 <table border="1"><caption>小学校 児童生徒質問調査 (36) 回答率 (%)</caption><thead><tr><th>科目</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>71.9</td><td>67.6</td><td>60.5</td><td>59.0</td></tr><tr><td>算数</td><td>67.0</td><td>60.6</td><td>53.3</td><td>55.4</td></tr><tr><td>理科</td><td>59.4</td><td>55.6</td><td>50.8</td><td>47.5</td></tr></tbody></table> 中学校 <table border="1"><caption>中学校 児童生徒質問調査 (36) 回答率 (%)</caption><thead><tr><th>科目</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>55.7</td><td>51.3</td><td>45.8</td><td>39.8</td></tr><tr><td>数学</td><td>54.7</td><td>47.2</td><td>35.8</td><td>28.5</td></tr><tr><td>理科</td><td>522</td><td>494</td><td>457</td><td>417</td></tr></tbody></table>				科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	71.9	67.6	60.5	59.0	算数	67.0	60.6	53.3	55.4	理科	59.4	55.6	50.8	47.5	科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	55.7	51.3	45.8	39.8	数学	54.7	47.2	35.8	28.5	理科	522	494	457	417	■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない 小学校 <table border="1"><caption>小学校 児童生徒質問調査 (37) 回答率 (%)</caption><thead><tr><th>科目</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>70.8</td><td>66.8</td><td>62.2</td><td>57.8</td></tr><tr><td>算数</td><td>64.3</td><td>60.9</td><td>55.3</td><td>51.4</td></tr><tr><td>理科</td><td>58.5</td><td>55.3</td><td>51.0</td><td>51.2</td></tr></tbody></table> 中学校 <table border="1"><caption>中学校 児童生徒質問調査 (37) 回答率 (%)</caption><thead><tr><th>科目</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまる</th><th>どちらかといえば、当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>国語</td><td>53.3</td><td>50.7</td><td>49.9</td><td>44.4</td></tr><tr><td>数学</td><td>52.2</td><td>46.0</td><td>42.6</td><td>31.6</td></tr><tr><td>理科</td><td>515</td><td>493</td><td>468</td><td>436</td></tr></tbody></table>				科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	70.8	66.8	62.2	57.8	算数	64.3	60.9	55.3	51.4	理科	58.5	55.3	51.0	51.2	科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	国語	53.3	50.7	49.9	44.4	数学	52.2	46.0	42.6	31.6	理科	515	493	468	436
科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	71.9	67.6	60.5	59.0																																																																																			
算数	67.0	60.6	53.3	55.4																																																																																			
理科	59.4	55.6	50.8	47.5																																																																																			
科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	55.7	51.3	45.8	39.8																																																																																			
数学	54.7	47.2	35.8	28.5																																																																																			
理科	522	494	457	417																																																																																			
科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	70.8	66.8	62.2	57.8																																																																																			
算数	64.3	60.9	55.3	51.4																																																																																			
理科	58.5	55.3	51.0	51.2																																																																																			
科目	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない																																																																																			
国語	53.3	50.7	49.9	44.4																																																																																			
数学	52.2	46.0	42.6	31.6																																																																																			
理科	515	493	468	436																																																																																			
質問番号		＜学校質問調査＞ 質問事項		小学校		中学校																																																																																	
(33)		習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をする		91.6		81.9																																																																																	

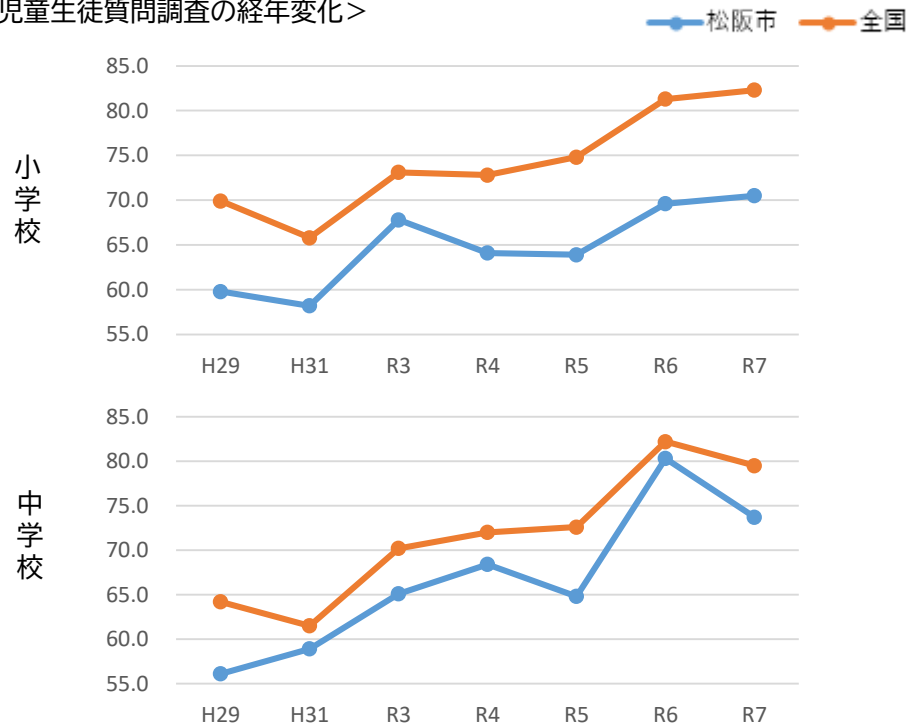
＜松阪市全体の特徴的な傾向＞ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に関する質問に対して肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する平均正答率が高い傾向が見られた。今後も、授業で身に付けたい力を明確にしたうえで、教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる言語活動や数学的活動、観察・実験等を設定するとともに、児童生徒の学習状況を見取り、必要に応じて働きかけを行うなど、深い学びの実現に向けた指導が必要である。また、児童生徒質問調査の(37)から、児童生徒の思考力や表現力をより深く育むためには、既習事項を生かして解決する課題等の設定や学習と実生活を関連付ける工夫を行うなど、児童生徒が「学んだことを使える」と実感できる場面を意図的に設けることも重要である。

(ウ) 総合的な学習の時間における探究の過程

※ は、中学校理科のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞ 質問事項
(40)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

＜児童生徒質問調査の経年変化＞



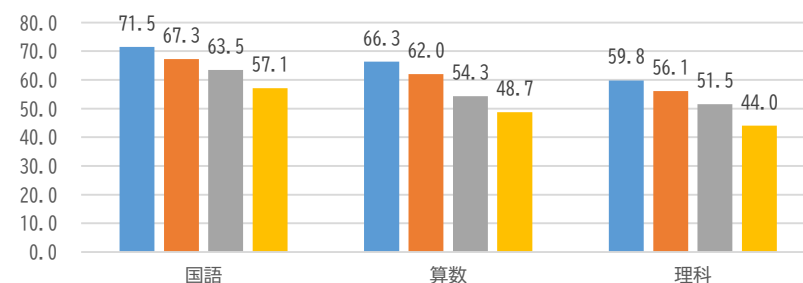
＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

松阪市では、総合的な学習の時間における探究的な学習の充実を推進しており、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と実感している児童生徒の割合は、経年的に改善傾向にある。また、児童生徒質問調査の(40)に肯定的に回答した児童生徒は、教科に関する調査において平均正答率が高い傾向が見られる。総合的な学習の時間において、教科での学びを活用したり、総合的な学習の時間で取り組んでいる内容と関連付けて、教科の学習に取り組んだりすることで、知識・技能の習得や学習意欲の向上につながると考えられる。総合的な学習の時間と教科の学習をつなげて、指導計画を作成したり、授業改善を行ったりすることが重要である。

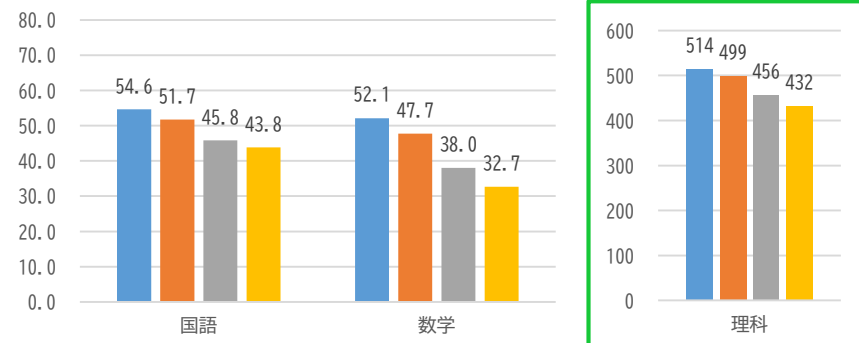
＜学力とのクロス分析＞

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校

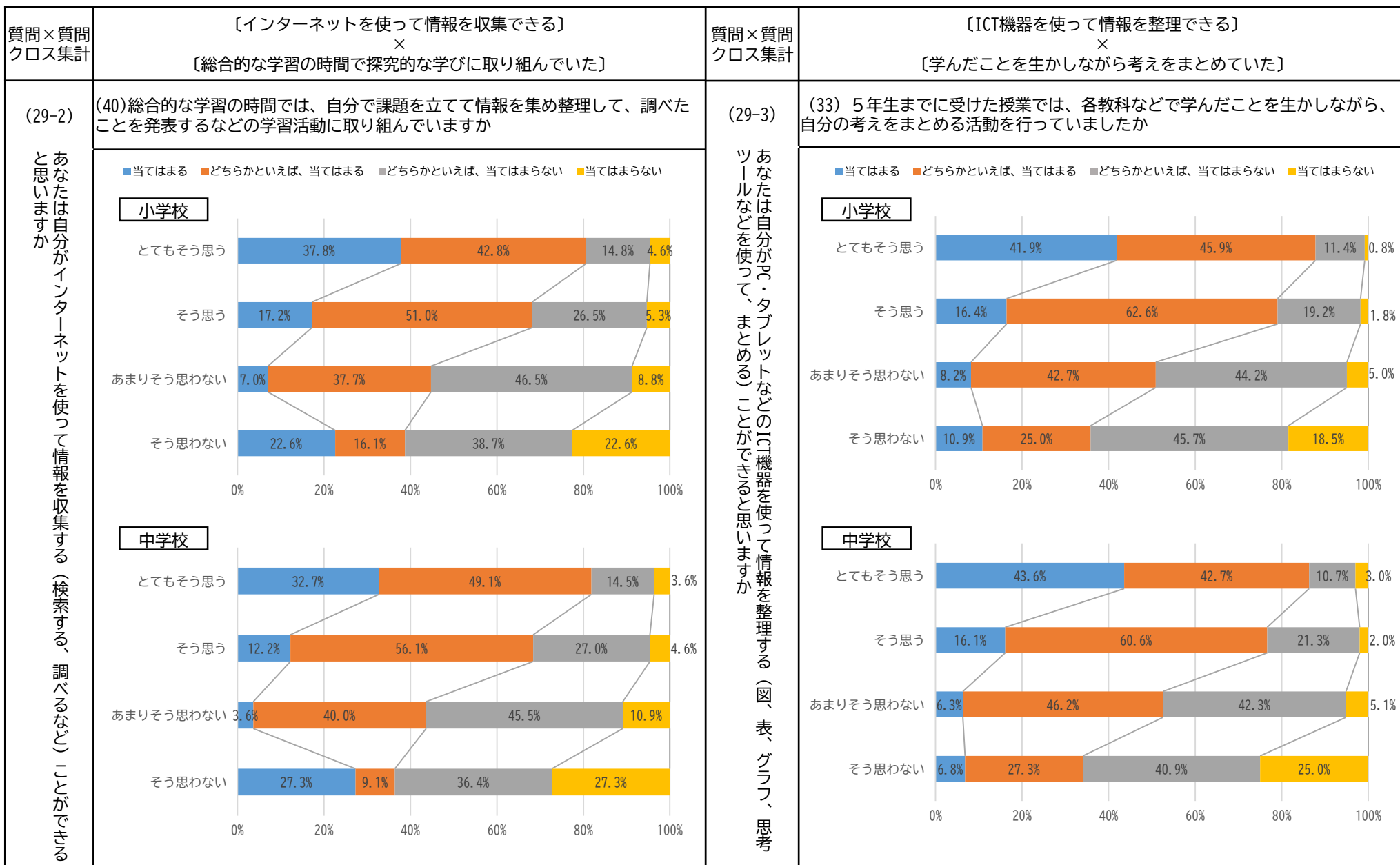


中学校

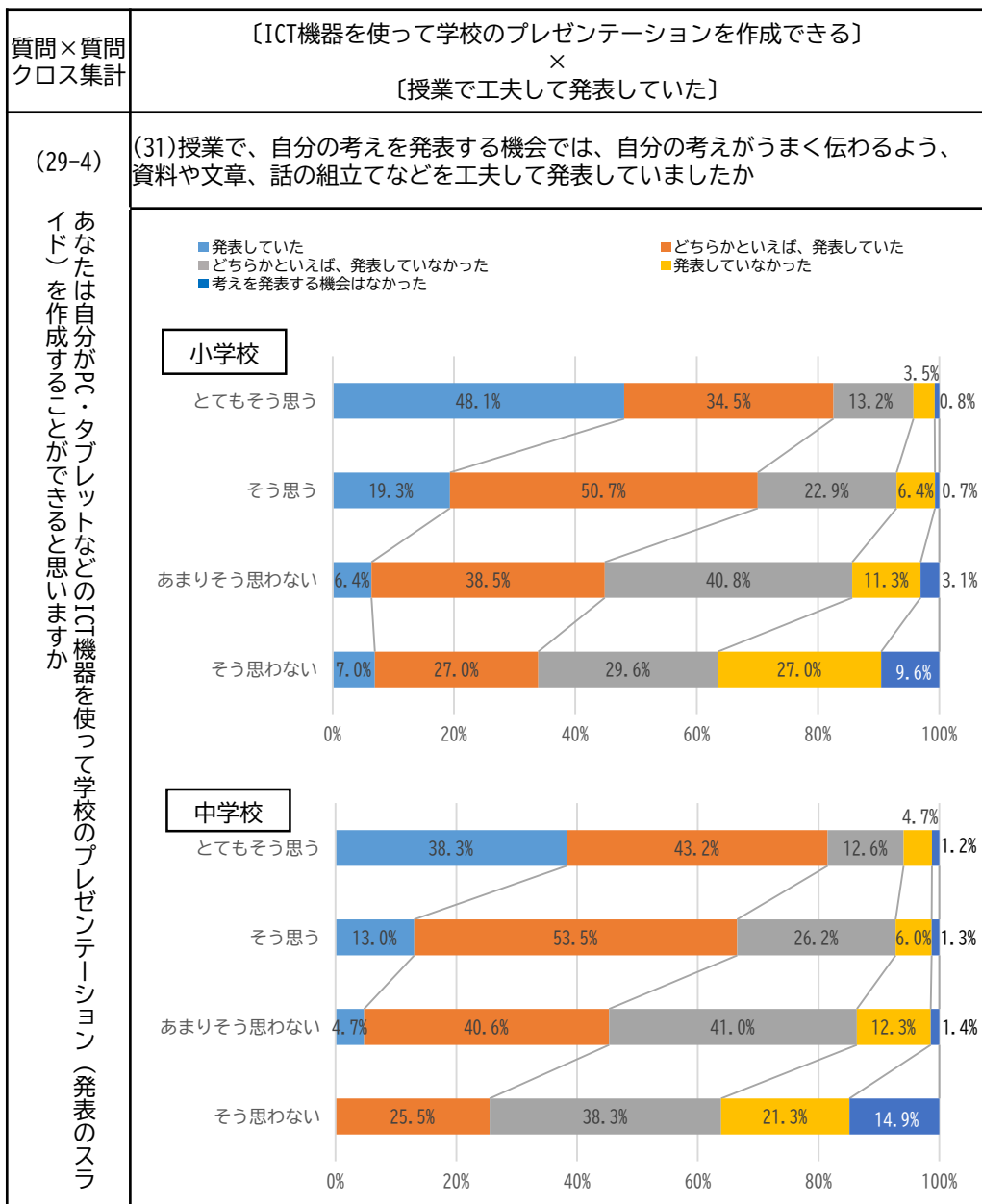


質問番号	＜学校質問調査＞ 質問事項	小学校	中学校
(16)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.2	90.9
(34)	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.3	72.7
(35)	教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	97.2	90.9
(36)	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	88.8	100

(工) ICTを活用した学習状況



(工) ICTを活用した学習状況



質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(59)	児童（生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※週3回以上	80.6	81.8
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(60)	児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※週3回以上	58.3	81.8
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(66)	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ※毎日持ち帰っている児童（生徒）	100	100

＜松阪市全体的特徴的な傾向＞

ICTを活用した学習状況では、異なる児童生徒質問調査の結果どうしについてクロス分析を行った。

「インターネットを使って情報を収集できる」と感じている児童生徒は、「総合的な学習の時間で探究的な学びに取り組んでいた」と肯定的に答える傾向がある。また、「ICT機器を使って情報を整理できる」と感じている児童生徒ほど、「学んだことを生かしながら考えをまとめた」と答える割合が高くなっている。さらに、「ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる」と感じている児童生徒は、「授業で工夫して発表していた」と肯定的に答える傾向が見られる。

このことから、ICTの効果的な活用は、子どもたちの学び方を充実させることにつながるであろうことがうかがえる。

学校質問調査の関連する質問項目についても、小中学校ともに全国を上回る結果となった。今後も、総合的な学習の時間や探究的な学習において、ICTを活用し、子どもたちの思考の可視化や協働的な学びを促進するなど、授業の中でのICT活用場面を計画的に充実させていくことが重要であると考えている。

6. 調査結果の分析 (2) カリキュラム・マネジメントの確立

21

(ア) 教科等横断的な視点

(ウ) 地域との連携

質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(14)	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	97.3	100
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(17)	言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	100	100
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(34)	児童(生徒)に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.3	72.7
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(35)	児童(生徒)に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	97.2	90.9

(イ) PDCAサイクルの確立

質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(15)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	100
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(40)	児童(生徒)に対する指導に関して、前年度までに、学習評価の方針を児童(生徒)に示した上で、児童(生徒)の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かすことを心がけましたか	88.9	81.8
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(83)	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	100

質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(16)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.2	90.9
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(74)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	94.5	100
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(75)	コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか(新規)	94.5	100
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(76)	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか(新規)	97.3	90.9
質問番号	<学校質問調査> 質問事項	小学校	中学校
(77)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	94.4	100

<松阪市全体の特徴的な傾向>

「教科等横断的な視点」

- ・(14)(17)(35)について全国の割合を上回り、前回調査結果と比べて改善が見られる。
- ・(34)について、小中学校ともに全国の割合を下回っている。

「PDCAサイクルの確立」

- ・(15)(83)について、肯定的な回答の割合が100%となっている。

「地域との連携」

- ・(74)(75)(76)(77)について、全国の割合を上回っている。
- ・(16)について、全国の割合を下回るものの、肯定的な回答の割合は90%以上である。

6. 調査結果の分析 (2) カリキュラム・マネジメントの確立

22

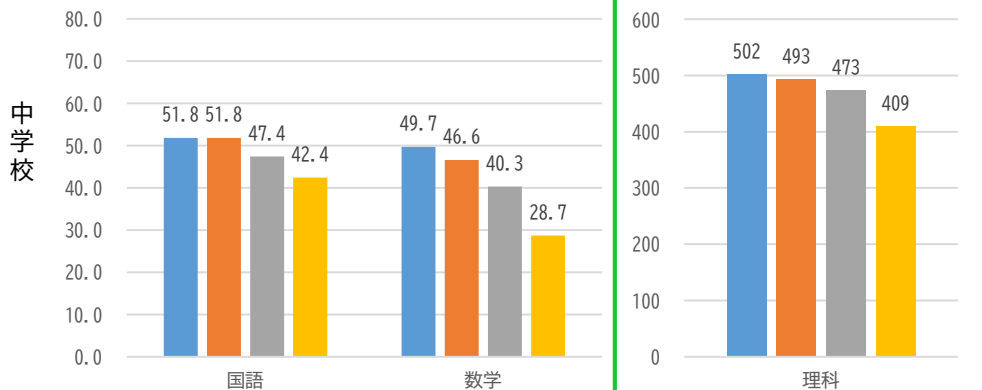
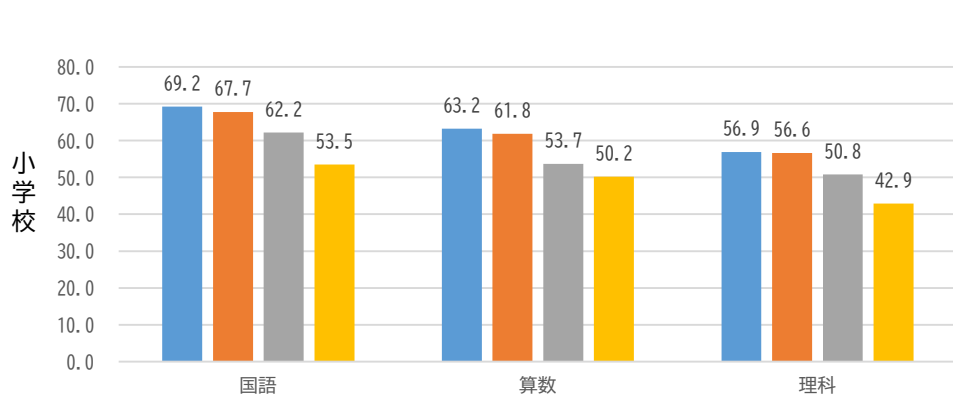
(工) 家庭との連携

※ は、中学校理科のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

＜学力とのクロス分析＞

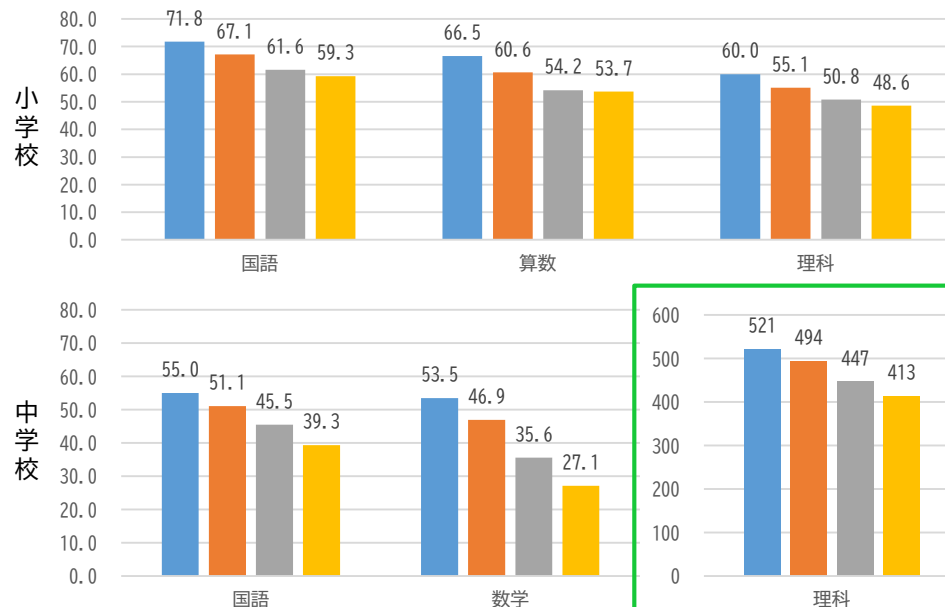
■ している ■ どちらかといえば、している ■ どちらかといえば、していない ■ 全くしていない



質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(16)	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

＜学力とのクロス分析＞

■ できている ■ どちらかといえば、できている ■ どちらかといえば、できていない ■ できていない



質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(80)	児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100	100
質問番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(81)	児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習について、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	94.4	90.9

6. 調査結果の分析 (1) 主体的・対話的で深い学びの創造

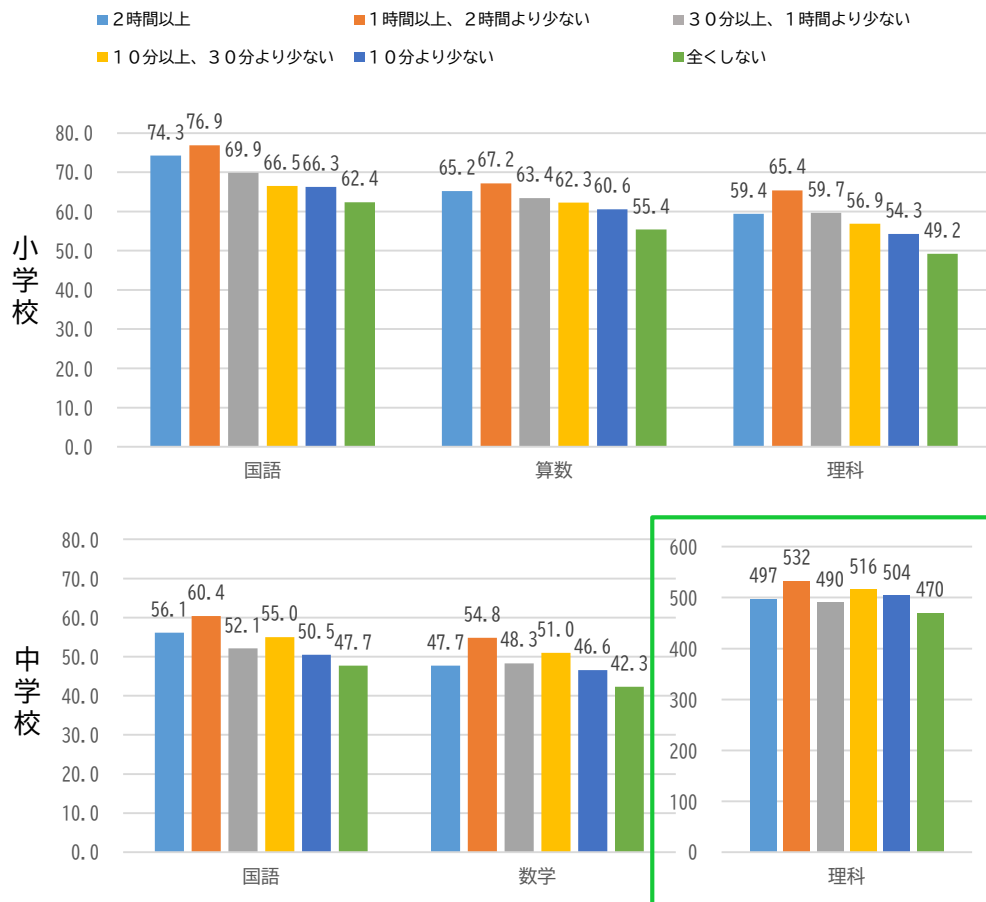
23

(工) 家庭との連携

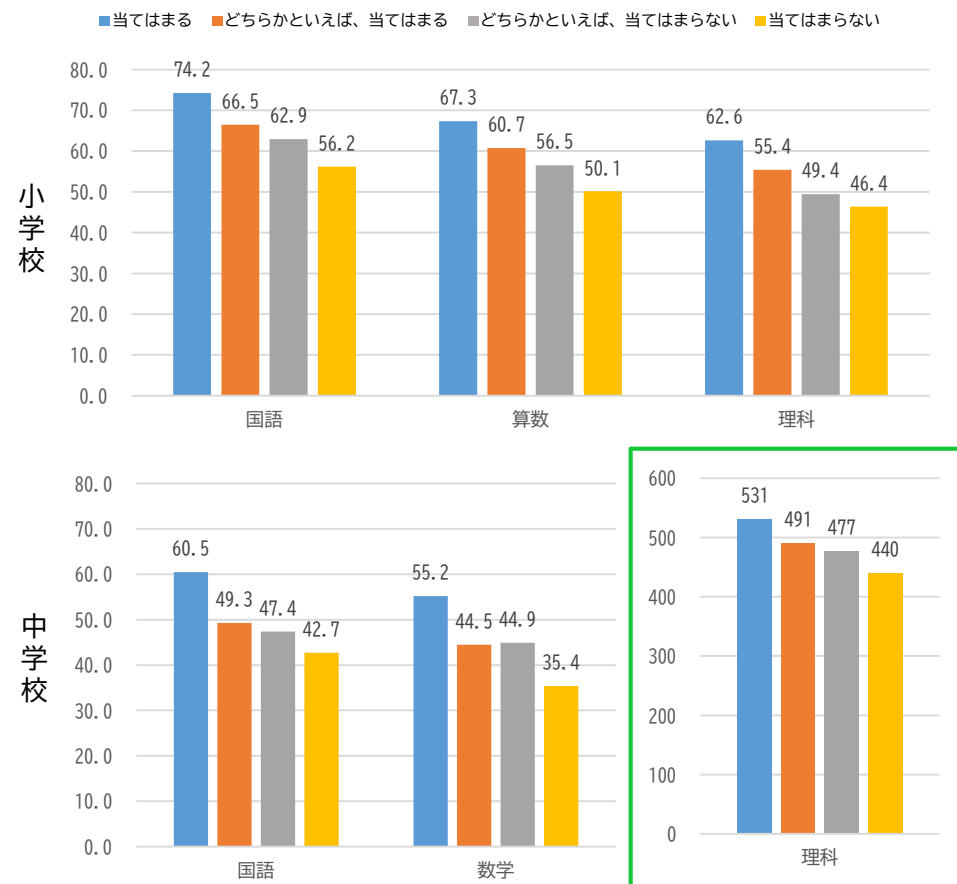
※ は、中学校理科のIRTスコアを表示

質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項	質問番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	(24)	読書は好きですか

＜学力とのクロス分析＞



＜学力とのクロス分析＞



＜松阪市全体的特徴的な傾向＞

「毎日、同じ時間に寝る」「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する」「読書は好き」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、児童生徒に対して、学校と家庭が協働し、家庭学習等に関する習慣を身に付けさせることは重要であると考えられる。また、読書への興味・関心が学力の向上に影響していることがうかがえることから、読書時間の確保だけでなく、児童生徒が読書を楽しむ・興味をもつ環境づくりが重要である。

7. 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の主な取組

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

○学力向上推進協議会の設置

- ・教育ビジョンの実現に係る方策等の立案及び成果等の検証

○「未来を切り拓く力」育成モデル校区による取組の充実

- ・中学校区の豊かな自然や歴史・文化、産業等の学びを介し、夢を育み未来を切り拓く力を、学校・家庭・地域が一体となって育む研究及び研究成果の還流

○教育イノベーションプロジェクトの推進

- ・現代的諸課題に対応して求められる資質・能力や学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成に向けた実践・研究
- ・ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の充実

○松阪市標準学力調査の活用

- ・児童生徒の課題を早期に把握し、一人ひとりの子どもに応じたきめ細やかな指導を進めるための支援及び授業改善

○教務担当者会議、教科担当者会議、研修担当者会議等の充実

- ・指導と評価の一体化の推進
- ・総合的な学習の時間等における探究的な学習の推進

○非認知能力（自己肯定感・自己有用感等）の育成に向けた取組の充実

- ・学校経営マイスター事業・スリンプルプログラムの推進
- ・Q-U（学級満足度調査）の活用

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進

- ・子どもも大人も学び合い、育ち合う教育体制の構築

(2) 学校の実践の焦点化

①「『主体的・対話的で深い学び』の視点等からの授業改善」に関して

○「未来を切り拓く力の育成」の実現に向けた授業改善

- ・子どもたちが主体的に考え、伝え合い、広げ深めることができる学習展開の工夫
- ・教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることができる学習活動の設定

○総合的な学習の時間等における探究的な学習、教科等横断的な学習の充実

○授業・家庭学習におけるICTの効果的な活用の研究、推進

②「カリキュラム・マネジメントの確立」に関して

○学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で各教科等の学習内容を配列

- ・学校全体における言語活動を意識した教育課程の工夫

○学校教育の効果の検証と改善

- ・各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立

○地域と連携した教育の推進

- ・教育課程の趣旨について家庭・地域と共有
- ・教育内容や教育活動に必要な人的・物的な資源の活用



令和7年10月
松阪市教育委員会

